

2023年12月24日  
宮崎中部教会クリスマス礼拝  
牧師 乾元美

イザヤ書9：18～19

ルカによる福音書2：1～7

「救い主は飼い葉桶に」

【招詞】 マルコによる福音書1：15

【讃美歌】 25 「父、子、聖霊に」

【詩編交読】 詩編130編

【赦しの宣言】 イザヤ書55：7 「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讃美歌】 247 「今こそ声あげ」

【祈祷】

【聖書】 イザヤ書9：18～19、ルカによる福音書2：1～7

【説教】 「救い主は飼い葉桶に」

<クリスマスの喜びとは>

クリスマスおめでとうございます。今日は、わたしたちの救い主である神の御子イエスさまが、この世にお生まれになったことを喜び、礼拝をささげる日です。クリスマスは、教会に通うわたしたちにとって、この上ない喜びの日、感謝の日です。

教会に通っていない人にとっても、世間はすっかりお祭りムードで、喜び、楽しむ人でいっぱいです。華やかなクリスマスツリー。美味しい食事やケーキ。豪華なプレゼント。

…でもきっと多くの方は、クリスマスが、何のお祝いなのか、何の喜びなのか、よく分からないままに、季節ごとのイベントの一つとして、何となく楽しんでいる。何となく騒いでいる。それが現実かも知れません。

でも、クリスマスを喜ぶこと、お祝いをするには、単なるイベントではありませんし、イエスさまがお生まれになったからといって、規模の大きな誕生パーティーをしているわけでもありません。

クリスマス、神の御子イエスさまが、救い主が、この地上に、お生まれになった。わたしたちのこの世界の、この歴史の只中に来られた。この出来事は、本当は、今、ここにいるわたしたちの、人生に、命に、実存に関わるような、大きな出来事なのです。

ですから、クリスマスの本当の喜びとは、絶望の中にいる人が、一筋の希望をやっと見出して、歓喜の声をあげるような喜びです。あるいは、ずっと真っ暗闇の中にいた人が、小さな明かりを差し出されて、心から安堵するような喜びです。または、耐えがたい痛みに、優しく温かい癒しの手が添えられたような、そんな慰めを覚える喜びです。

…今日わたしたちは、このクリスマスの、本当の、深い喜びを、共に味わいたいと願います。そして、世のすべての人が、本当のクリスマスの喜びを知ることが出来ますようにと、心から祈りたいと思います。

#### <クリスマスの出来事>

さて、わたしたちは、まず、クリスマスの出来事を、聖書の御言葉から辿っていきたいと思います。今日のルカによる福音書の箇所には、イエスさまがお生まれになった時の様子が語られていました。2：1～5にはこうありました。

「そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た。これは、キリニウスがシリア州の総督であったときに行われた最初の住民登録である。人々は皆、登録するためにおのおの自分の町へ旅立った。ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。身ごもっていた、いいなずけのマリアと一緒に登録するためである。」

まず、はじめに。イエスさまは、聖霊によって、神さまの御力によって、ヨセフと結婚をする前の、マリアという、一人の女性のお腹に宿られました。

それは、イエスさまが、まことの神の御子でありながら、わたしたちと同じ、まことの人としてお生まれになった、ということの意味しています。

さて、そのようにしてマリアが、聖霊によってイエスさまを身ごもり、お腹もだんだん大きくなってきた、ちょうどその頃。

当時、ユダヤ人を支配していたローマ帝国の皇帝、アウグストゥスが、人口調査のために、ユダヤ人は地元へ帰って、住民登録をするように、と命じました。

それで、イエスさまをお腹に宿したマリアは、夫となるヨセフと共に、はるばる、ヨセフの出身地であるベツレヘムへ、旅をしなければならなかったのです。

4節には、「ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であった」とあります。

ヨセフは、イエスさまの血肉の父親ではありません。しかし、イエスさまの母となったマリアが、ダビデ家のヨセフと結婚することで、イエスさまもまた、ダビデ家の血筋の者として、生まれることになったのです。

そしてこれは、かねてからユダヤ人の中で、神さまの約束として、預言者から代々伝えられてきたことが、確かに実現するためでした。

神さまは、ユダヤ人の歴史の中でも、最も栄えたダビデ王の子孫の中から、世のすべての人を罪から救い、祝福するために、救い主、メシアを遣わす、と約束をしておられたのです。

今日読まれた、旧約聖書のイザヤ書9：5～6は、まさに、その約束が示されている箇所の一つです。こうありました。

「ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれました。ひとりの男の子がわたしたちに与えられた。権威が彼の肩にある。その名は、『驚くべき指導者、力ある神／永遠の父、平和の君』と唱えられる。ダビデの王座とその王国に権威は増し／平和は絶えることがない。王国は正義と恵みの業によって／今もそしてとこしえに、立てられ支えられる。万軍の主の熱意がこれを成し遂げる。」

イエスさまが、ダビデ王の血筋として、ダビデ家のヨセフの妻マリアからお生まれになったのは、まさに、イエスさまこそが、約束されたメシア、救い主であることの、確かな「しるし」だったのです。そして、この方が、神の力で、正義と恵みの業によって、世を支配する、平和の君となられる、と告げられていたのです。

<罪の只中に>

でも、神の御子であり、約束された救い主であるイエスさまは、王になる者として、華々しく、沢山の歓声に包まれて、この地上にお生まれになったのではありませんでした。

ルカによる福音書 2：6～7 には、こうありました。「ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。」

生まれたばかりの、小さい、幼いイエスさまは、人間が休むところですらない、馬などを飼うための家畜小屋の、飼い葉桶の中に寝かされたのです。

宿屋には、彼らの泊まる場所がなかったから、とありました。泊まる場所がなかった。同じく住民登録のために、すでに多くの人が泊まっていたのでしょ

でも、それはまた、月満ちたマリアが、苦しんで出産しようとするその時も、誰一人、横になるための、わずかな場所さえ、譲ってくれなかった、ということです。生まれたての、体の弱い、小さな赤ん坊を、心にかけてくれる者が、誰もいなかった、ということです。

こうして、世の中の、忘れられたようなところで。貧しく、惨めな、寂しいところで。神の御子は。すべての人類を罪から救うメシアは。まことの王は。ひっそりとお生まれになったのでした。

この出来事は、まさにわたしたちの、罪に覆われた、暗闇のような世界を現わしているようです。

本当は、わたしたちをお造りになった神さまは、わたしたちが、神さまを愛し、また隣人のことも、自分のように愛すること。お互いに、恵みを分かち合いながら、赦し合いながら、共に喜んで生きることを望んでおられます。

でも、その神さまの御心に、従うことができない。それが、わたしたちの罪なのです。

神さまに従わず、神さまから離れて行く。隣人を愛すること、赦すことができず、互いに傷付け合っている。自分のことしか考えない。自分が良ければいい。自分には関係ない。

…神さまの愛から離れた、そんな自己中心的な思いが。そのような罪が。わたしたちを、またこの世界を、支配しているのです。

そして、神さまの御心に従わない人々は、神さまを愛せない、隣人を愛せない人々は。やがて、神の御子イエスさまを、十字架につけて、殺すことにまで至ります。

神さまは、いらぬ。わたしの思いに沿わない神さまは、受け入れない。それは、わたしたちの内にもある、深刻な、恐ろしい、罪なのです。

神さまを退けるということは、自分が神さまになろうとすることと、同じです。

自分の人生を支配する。自分の思い通りに生きる。自分のために生きる。

やがて、そんな自己中心的な人間の思いは、互いにぶつかり合い、傷つけ合い、争いを、対立を、分断を、無関心を、生んでいくのです。

だから、神さまは、わたしたちを、このような罪から救うために。神さまから離れてしまったわたしたちを、ご自分の許に立ち返らせるために。独り子であるイエスさまを、この世に、わたしたちに、お遣わしになったのです。

そして、神さまは、御子イエスさまに、すべての人間の罪を背負わせられることによって、わたしたちを罪から解放する、救いの道を、備えてくださったのです。

神さまは、そこまで、わたしたちのことを、愛しておられます。神さまの愛は、わたしたちを救うためになら、御子イエスさまの命をも、犠牲にするほどの愛なのです。そこまで、神さまは、わたしたちと共に生きることを、願って下さっているのです。

その愛を身に帯びて、イエスさまは、わたしたちの罪の只中に、暗闇の只中に、来られたのです。

この方を、温かく迎える者はいませんでした。それでも、イエスさまは、わたしたちの最も近くに。わたしたちの最も下に。わたしたちの只中に、低く、降って来られたのです。

<わたしと出会うため>

ですから、わたしたちは、救いを求めて、神の御子にお会いするために、天まで上って行く必要はありません。ダビデ王の子孫にお会いするために、神殿や王宮に行く必要はありません。救い主にお会いするために、修行を積んで、徳を積んで、救われるのにふさわしい人物にならなくてもよいのです。

というよりも、罪に捕らわれたわたしたちは、もはや、天に上ることも、救いにふさわしい人間になることも、神さまに近づくことも、何も出来なかったのです。

だからこそ、イエスさまが、ご自分を低くして、天から降って、わたしたちのところへ来て下さいました。そして、わたしたちに、すべての人に、ご自分を差し出して下さいました。

そのようにして、イエスさまから、わたしたちと、出会って下さるのです。イエスさまから、わたしたちの心に、宿ろうとして下さるのです。

思えば、わたしたちの心こそ、飼葉桶のように、貧しく、小さく、罪に塗れ、救い主を受け入れるのに、まったくふさわしくないようなところでした。

でも、そんなわたしたちのところにも、イエスさまは、喜んで来て下さるのです。

わたしたちが、どんなに罪にまみれていても。どんなに汚れていても。どんなに貧しく、惨めで、弱くても。神の御子、救い主イエスさまは、その只中に来て下さり、わたしと共にいて下さいます。

わたしたちが、誰かに見捨てられるときも、無視されるときも、弱さや苦しみの中で、ただ身を横たえる時も。その只中に、イエスさまは、共にいて下さいます。

そして、わたしたちは、来てくださったイエスさまを、わたしの救い主として、心を開いて、迎え入れるだけなのです。

神さまから差し出された愛を、赦しを、救いを、イエスさまご自身を、ただ受け取るだけなのです。

このようにして、ご自分を低くし、ご自分を与えられる、平和の君は、まことの王は、愛によって、恵みによって、光によって、一人一人の心をご支配して下さるのです。

神さまが、共にいてくださる。わたしたちは、もはや、罪と、闇に支配されているのではなく、神さまの愛と、光の、ご支配の中にいる。

このことを知ることこそが、わたしたちの、本当の幸いであり。本当の救いです。

イエスさまが、このわたしのところに、愛のために、救いのために、来て下さった。このことこそが、すべての人間に与えられた、本当のクリスマスの喜びなのです。

### <喜びのクリスマス>

…クリスマスの喜びとは、神さまに愛されていること、神さまが共にいて下さることを、知ることです。

この慰めが、この希望が、この平安が、まことのクリスマスの喜びとして、世界中に広がっていくことを、一人一人の心に届けられることを、わたしたちは祈りたいのです。

現実の世界を見れば、やはり、罪に覆われている。闇に支配されている。わたしたちの目には、そのように映るかも知れません。

でも、わたしたちが、ここにいる一人一人が、神さまの愛を、イエスさまの光を、心に受け止めるなら。そこには、確実に、神さまのご支配があるのです。

そして、その一人が、このわたしが、イエスさまと共にある喜びに押し出されて、隣人を愛すること、隣人を赦すこと、隣人に仕えることを、始めようとするなら。それは、この暗闇の世界に、イエスさまの光を、小さくとももう一つ、掲げることになるでしょう。

どうか、わたしたちが、本当のクリスマスの喜びを、いただいた愛を、照らされた光を、少しでも、誰かと、分かち合っていくことが出来ますように。隣人の痛みを覚え、隣人のために祈り、愛の手を差し伸べていくことが出来ますように。

そして世界が、すべての人が、神さまの愛を知り、イエスさまの光に覆われ、共に喜ぶことが出来ますようにと願います。

**【お祈り】**

天の父なる神さま

クリスマスのこの日。罪の闇の中にあるわたしたちに、御子イエスさまを遣わして下さったこと。そして、神さまの愛を、罪の赦しを、共にいてくださる恵みを、知らされたことを、心から感謝いたします。

イエスさまのご降誕は、すべての者に与えられた、救いの出来事です。すべての者に差し出された、喜びの出来事です。どうか、低く降って来て下さり、どのような罪の中でも、どのような苦しみや、悲しみの中でも、近く共にいて下さるイエスさまが、お一人お一人と、出会って下さいますように。

どうか、一人でも多くの者が、イエスさまのご降誕を、自分の救いの出来事として受け止め、心を開いて、イエスさまをお迎えすることが出来ますように。

そして、すべての者が、共にまことのクリスマスを喜び、祝うことが出来ますように。

わたしたちの救い主、イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン

**【讃美歌】** 280 「馬槽のなかに」

**【信仰告白】** ニカイア信条

**【聖餐】**

**【讃美歌】** 76 「今こそ歌いて」

**【十戒】**

**【献金】** 65-1 「今そなえる」

**【主の祈り】**

**【祈祷】**

**【讃美歌】** 26 「グロリア、グロリア、グロリア」

**【祝福】** 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。アーメン